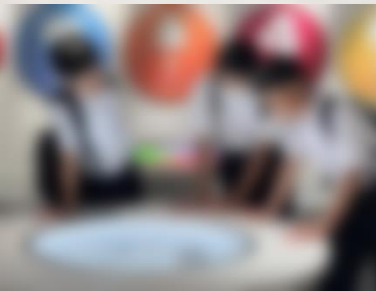


学びを深め、絆を紡ぐ校外学習



東海中新聞

NO. 383
令和5年6月号

3年生は修学旅行、2年生は名古屋で班別学習、1年生は東山動植物園に出かけました。

『子供を大切に する』とは

教頭

生徒の皆さんは、大人の方からどのように接してもらおうかだと思いますか？保護者や地域の皆様は、どのようにお考えでしょうか。

教員になってからずっとこれを念頭に置いて生徒と関わってきました。中学生として生活している現在のことを考えるときも、卒業後や大人になった未来のことも考え、何が正解かを考えるのは本当に難しいです。個によって違うし、時代によっても違うからです。子供を思ってしまったことが、後になって伝わることもあれば、悪く出てしまうこともあるのが理由の一つです。

今も昔も、タイムマシーンに乗って過去に戻るとか、過去に戻ることができるとする能力を使うなどして、やり直すという内容のドラマや映画などが作られています。多くの視聴者の共感を得ています。それは、大人はみな、様々な経験をする中で後悔することがあり、「あの時に戻ってやり直せたら…」と思うことがあるからだと思います。だから、大人はどうしても、子供のすることに口を出し、干渉してしまいます。私は、「子

供を心配するのが大人の仕事だから」と言っていて、正当化しています。

保護者より、相談を受けることがあります。我が子のために一生懸命あの手この手で関わっていても「親の心子知らず」で、中々伝わらず、悩まれる方が中学生の保護者には多いように思います。思いが伝わらないことは、本当に辛いことです。でも、親のその気持ちや、子供の成長には欠かせません。今ベストを尽くすことが、後になって振り返った時に、保護者にとっても、子供にとってもよかったと思えるはずなんです。

私には三人の子供がいます。どの子ももう成人しています。最近よく「あの頃、〇〇してあげればよかった」と思うことがあります。でも、もう時すでに遅いです。せめてもと、今からでもできることを少しずつしています。そう考えると、現在進行形の親御さんならいくらでもやりようがあると思います。

中学生の皆さん、大人も、上手に気持ちを伝えられるばかりではありません。迷いながら成長期にある皆さんと接していると思います。ただ、中学生は、もう大人です。だから、回りの大人が、大事に思ってくれる気持ちを汲み取れるようになると思います。もしかすると、思うことがあれば、伝えてくれることを待っているかもしれません。

これからもみんなで『子供を大切に
する』について考えていきましょう。

東海中 P T A だより

専門委員会の活動だより

父母教師会会長

今年度の P T A は役員や理事だけでなく保護者全員に参加の機会が得られるよう、ボランティアという形で任意の参加者を募集します。積極的に参加してくれる方のお力は、子どもたちの安全や充実した環境を提

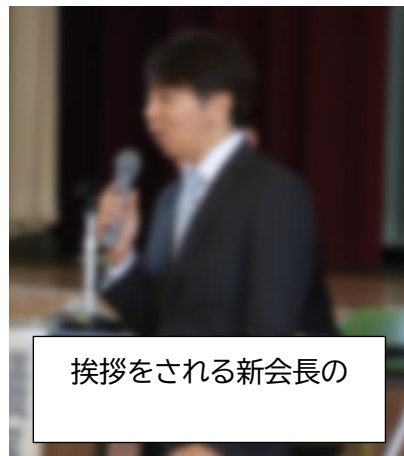
供するための補助になり、結果的に子どもたちの心を豊かにするものとなるはず。子どもたちの為、そして保護者ご自身が得られる喜びや充実感の為、P T A 活動のふるってご参加いただければ幸いです。

安全指導委員長

東海中学校の通学路は、交通量も多く、トラックなどの大型車も通り、また見通しの悪いところもあることから、危険箇所が多くあります。東海中学区十二ヶ所で朝の立哨活動を行い、生徒一人一人が安全に通学できるように務めていきます。また、体育大会の駐車場整理やマラソン大会の交通指導などを通じて子どもや保護者の安全を守る活動をしていきます。一年間よろしくお願ひします。

文化教養委員長

そもそも文化教養とは？調べてみると文化とは人工的なもの、教養とは知識を指し要約すると文化と教養は深い



挨拶をされる新会長の

関係で成り立っている、と。それらを伝える一旦を私たち委員会が担ったのだと思うのですが、それは少々難しい話かと。まずは少しでも興味関心もてるものを委員会企画し、活動を通して文化や教養に触れることができた良いのではと思っています。一年間よろしくお願ひします。

生活環境委員長

新年度が始まりましたが五月八日をもって新型コロナウイルスの位置付けが五類感染症に移行したことで行動制限がなくなり、中学校においてもコロナ禍以前の様な活発な行事が行われることが期待されます。

生活環境委員では学校の草刈り、資源回収、マラソン大会での豚汁作りなどの活動を通じて生徒の皆さんが元気に楽しく学校生活を過ごす一助となる

様に努めてまいります。一年間どうぞよろしくお願ひします。

広報委員長

広報委員会では、東海中新聞のコナーの一つ『東中 P T A だより』を企画し、子どもたちの学校でのイベントや、学校での様子、学区の紹介をしていきます。

東海中新聞は、保護者にとって学校の様子等を知る大事なものです。この広報を通じて日ごろの様子や学校でのイベント等を話題にし、親子の会話の一つにしていただけならと思いません。また、委員会から、原稿の依頼があります。その際には御協力の程宜しくお願ひ致します。



令和5年度 P T A 役員のみなさん



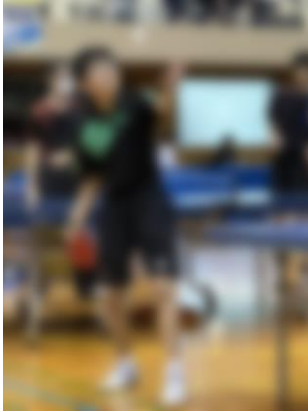
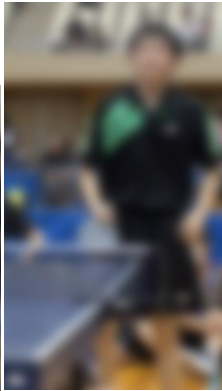
父母教師会総会の様子

総体観戦記

応援ができる喜び

卓球部 保護者

今年はおアフターコロナ時代に入り、卓球の練習も増え、試合中の応援も緩和されました。強敵相手に独学で生み出したサーブが決まりこちらの得点でのスタートでしたが、ミスもあり、惜しくも敗退となりました。試合中は点を取っては「おおー」、点を失っては「どんまい」と応援する仲間達。昔、卓球で汗を流した青春時代が蘇ってきました。これから多様に変わり行く時代を、仲間と共に乗り越えて行つてほしいです。



総体を観戦して

剣道部 保護者

五月十三日、岡崎市中央総合公園で剣道の試合が行われました。一人一人粘り強く試合に臨み、各々の技量の上達を感じました。結果として男子・女子ともに予選から勝ち進むことはできませんでしたが、最後まで頑張る姿を見ることができました。

三年生が出場する試合も残りが少なくなりました。これまで頑張ってきたことが発揮できるようにと願っています。

次への

ステップ

ソフト

テニス部

保護者

五月十三日、天気心配されるなか、無事に総体を迎えることができました。選手たちは少し緊張した面持ちでしたが、終始落ち着いて試合を展開し、見事に初戦を突破しました。迎えた二回戦目では二対一で惜しくも敗れてしまいました。嬉しい気持ちや悔しい気持ち、たくさんの思いが芽生えたのではないかと思います。

この総体での経験を活かし、市長杯では、さらに力強いプレイが見られることを楽しみにしています。



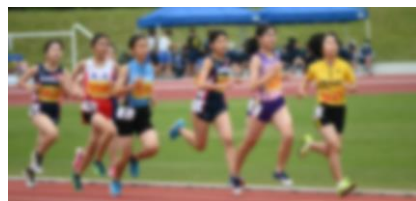
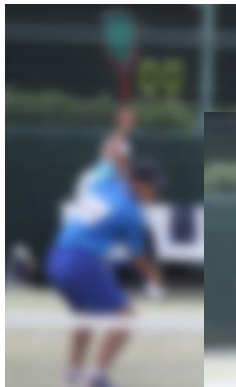
最後の夏に向かって

陸上部 保護者

今年度の大会では保護者の応援も可能となり、龍北陸上競技場の観客席では多くの方々の子供達に向けて熱いエールを送っていました。三年前、中学三年の兄の総体は中止を余儀なくされ、行き場のない悔しきで涙を飲んだことを覚えていています。

そのこともあり、三年生の大会でこのように頑張っている息子の姿を見ることができて本当に嬉しく思いました。当たり前のことができる喜びを感じられて、幸せだと思えました。最後の試合となる市長杯の期間まで残りわずか

かですが、精一杯楽しみ、仲間、先生方と共に走り切ってくれたらいいなと願っています。



修学旅行記

修学旅行での成長

三年

私たちは修学旅行を通して様々な体験をして学び、成長することができたと思います。

一日目、二日目はバディ・班別行動で、時間を守り楽しむことができました。特に一日目は予定より早く目的地に着き、空いた時間をどのように使うか、スマホを頼りに各班で考え、臨機応変に対応することができました。

三日目の学級別行動ではそれぞれの学級の仲が深まりました。

今回の修学旅行のテーマである東京MAPSには自分の道を自分でつくるというサブタイトルがあります。自分で考え、実行する姿がたくさんみられ成長が感じられました。しかし、成長したことの継続が大切だと思います。

修学旅行で学んだことを今後の生活に活かし、これからも成長し続ける学年でありたいです。

修学旅行を終えて

三年

僕たちは修学旅行を通していろいろなことを学び、成長することができた三日間だと思いました。一日目は班別行動で時間を守ることや公共の場でのマナーやルールを守る大切さをいろいろな場所で学ぶことができました。

今回の修学旅行のテーマである東京MAPSには多くの意味が込められています。Mには最高思い出の一ページをつくること。Aには班の一員として役割を果たすこと。Pには将来に向けてマナーやルールを学ぶこと。Sには修学旅行を通してSDGSを学ぶこと。学年全員で意識して生活ができたためしつかりと学べて、楽しめた修学旅行になったのだと思います。

今回の修学旅行では、ほとんど成功でき楽しめましたが、少し失敗してしまったこともありました。そこを今後直していきつつ、修学旅行で学んだ時間を見て行動や生活の規則を守ることには忘れずに学校の顔となるように心がけていけるようにしていきたいと思いました。



やまなみ

学校生活の根幹は授業

研究主任

一日の学校生活のうち、実に七割をも占めるのが授業時間である。そのため、楽しく充実した授業が、生徒の楽しく充実した学校生活に直結する。

昨年度の学校新聞九月号に「授業の主語は生徒」という拙文を書いた。今年度も生徒を主語にした授業研究に変わりはない。自立的・共生的に学ぶ生徒を育むことで、各教科の学びを深めていくことを目指す。

先月は二度の研究授業があった。授業の数週間前には授業検討の場もあった。そこでは、役職や教職経験年数に関わらず、よりよい授業を目指して妥協なく議論を尽くした。毎回の研究授業の後には、参観した教師の意見を教師全員で共有し、それぞれの授業改善に活かせるようにしている。

授業研究に終わりはない。授業後に反省することも多い。しかし確実に言えることは、東海中には意欲的に学び、仲間を見捨てることのない素晴らしい生徒がいるということである。そんな魅力あふれる生徒の楽しく充実した学校生活を求めて、「チーム東海」で授業研究にあたる時間は、私にとって、大変楽しく充実した時間である。